

県中教研 特別活動部会だより

第 39 号

発行日 令和6年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 福光 秀行
題 字 金山 泰仁 先生

「ひとつになる・ひとりになる」

指導主事 森川 誠

この言葉は、20年程前に、私が勤務していた学校の学年主任が4月の学年集会で話された言葉です。3年生は、体育大会、合唱コンクール等、「ひとつになる」場面が多くあり、進路選択に向けて自分を見つめ考え実践する「ひとりになる」時がくることを語られました。この言葉は、まさに、学習指導要領で学級活動に求められていることです。

学級活動(1)は、生徒が共通して取り組むべき課題を見だし、議題を設定して、話し合い、合意形成をします。そして、決まったことに全員で協働して取り組む、「ひとつになる」活動です。学級活動(2)は現在及び将来における生活上の課題、(3)は現在及び将来を見通した学習や生き方に関する課題を教師が題材として設定し、解決方法等について、話し合い、一人一人が意思決定します。そして、決めたことに個々に取り組む「ひとりになる」活動です。この「ひとつになる・ひとりになる」活動を、バランスよく設定していくことが、現在及び将来の自己と集団との関わりを理解することに繋がるのではないかと思います。

さて、今回、富山市立堀川中学校の1年生では、学級目標実現のために、どんな取組をしたらよいかを話し合い、合意形成を目指した授業、2年生では「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」に向けて、3年生では「思い描く将来」に向けて、今できることを話し合い、意思決定に向かう授業が展開されました。議題、題材の設定やアンケートの結果、切実感のある資料の提示、学習形態の工夫等により、課題を自分事として捉え、主体的に話し合う生徒の姿を見ることができました。また、学年に応じて、育てたい姿を明確にし、学級活動(1)～(3)が設定されていました。

今後は、合意形成、意思決定したこと(P)を、実践(D)、振り返り(C)、次の課題(A)へとという学級活動のPDCAサイクルを積み上げ、健全な生活や社会づくりの実践力を高めていってほしいと思います。

(東部教育事務所)

将来の生き方につながる実践と振り返りの充実

部長 福光 秀行

新学習指導要領【特別活動の目標】の一つに「自主的、実践的な集団活動を通して、身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。」とある。生徒の自発的・自治的な「自己実現」「人間関係形成」「社会参画」への意欲の向上に向け、昨年に引き続き「学級活動を通して身に付けるべき資質・能力を育成するための指導はどうあればよいか。一生徒が主体的に参加し、合意形成や意思決定を目指す話し合い活動を通して-」を研究主題として研究を進めてきました。

第67回研究大会では、東部地区は富山市立堀川中学校、西部地区は小矢部市立石動中学校を会場として研究大会を開催することができました。堀川中では、各学年の3部会、石動中では、1年と3年の2部会に広い授業会場や協議会場を準備していただき、多くの先生方に参加していただくことができました。

どの授業も生徒が議題や題材について主体的に参加するための手立てがしっかりと行われており、生徒は、自分事として問題をとらえることができていました。また、合意形成や意思決定に向けての話し合いについては、主体的に議論できるよう学習形態にも工夫が凝らされており、昨年度の課題として挙げられていた課題設定や学習形態等についての課題の解決が図られていました。しかしながら、指導助言の先生方からは、全国学力学習状況調査の結果から学級活動の時間が、十分に確保できていない実情と振り返りの活動の大切さについて指摘を受けました。

今後は、社会生活への適応や人間関係形成のための資質の育成に向けて、学級活動で決定したことがその場限りにならないように合意形成や意思決定したことが適切に実践されているか振り返りの機会を繰り返し設け、充実させていければと思います。

(高・南星中)

第67回 富山県中学校教育課程研究大会

東部地区（富山市立堀川中学校）

東部地区大会では、富山市立堀川中学校を会場にして、渡辺卓也教諭、池田慎太郎教諭、舟橋哲夫教諭による研究授業が行われた。本日よりでは、3つの授業の概要と指導助言について報告する。

（第1学年）渡辺 卓也 教諭

題材名 「輝石」を見付ける活動の企画

生徒が自由に意見を言い合い、互いを認め合う温かな雰囲気の中、話し合いが進められた。本時では、各グループから提案された学級の諸問題に対する解決策の改善点や改善案について検討を行った。話し合いのポイントが明確に示されていたことで、グループ間で活発な意見交換が行われていた。



部会協議では、「司会者の臨機応変な対応が素晴らしい」、「少数派の意見を大切にす声かけがよい」、「多数決に頼らない意思決定をするためのアプローチはどのようなものがあるのか」等の意見が挙げられた。

浦田栄信主任指導主事（東部教育事務所）からは、「心理的安全性が確保される学級経営」や「少数意見を尊重するための手立て」、「合意形成からの実践、事後の振り返りというプロセスの大切さ」等について助言をいただいた。

高野 佳之（滑・早月中）

（第2学年）池田 慎太郎 教諭

題材名 働くことや社会に貢献すること

「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」に向けて、話し合いやロールプレイを通して、社会生活におけるルールやマナーについて考える授業が展開された。事前アンケートの結果から、生徒が不安に感じる3つの場面について対応策を話し合い、ロールプレイを行った。どの生徒も自分の問題として捉え参加し、一生懸命に役割演技をしていた。部

会協議では、「最初に見せた教員のロールプレイビデオが効果的だった」、「ロールプレイ後の生徒の振り返りの時間があればよかった」等の意見が出された。

日吉竜滋指導主事（東部教育事務所）からは、「実態を考慮した展開の工夫の大切さ」、「ロールプレイの活用」、「タイムマネジメントの重要性」、「話し合い活動に生徒全員が参加することの必要性」、「振り返りの大切さとその視点」等について助言をいただいた。

長谷悠太郎（黒・明峰中）

（第3学年）舟崎 哲夫 教諭

題材名 自分らしい生き方について考える

「将来大切にしたい人生の構成」について、6つのテーマ（仕事、人間関係、金・物、健康、学び、趣味）を設定し、ライフステージごとの具体的な自分の将来像を班で共有した。班での話し合い活動では、模造紙や付箋（年代別に色分け）が使用され、意見交流が円滑になるよう工夫されていた。部会協議では、「導入時、現状に関する資料が提示され、身近なこととして捉えることができた」、「付箋を年代別ではなく項目ごとにしたり、班ごとに1つのテーマを割り振ったりすれば時間軸を元に話し合い活動が展開できたのではないか」等の意見が挙げられた。



森川誠指導主事（東部教育事務所）からは、「学習指導要領にある3つの学級活動の特質の違いに対する深い理解」、「PDCAサイクルを取り入れた指導計画立案の重要性」、「より切実感のある意思決定の場面設定」等について助言をいただいた。

桂 明日菜（下・入善中）

第67回 富山県中学校教育課程研究大会

西部地区（小矢部市立石動中学校）

西部地区大会では、小矢部市立石動中学校を会場として、森諒子教諭、岩田梨琴教諭、による授業提案が行われた。1学年では「内容（2）ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」、3学年では「内容（3）ウ 主体的な進路の選択と将来設計」に関して工夫した話し合い活動が展開された。

（第1学年）森 諒子 教諭

題材名 お互いが気持ちのよい伝え方を考えよう。～こんなときどう伝える～

事前アンケートの集計をグラフで提示し、動画を視聴したり、



ロールプレイを取り入れたりして話し合いが円滑に行われるように工夫されていた。その中で十分に班での話し合いが行われ、これまでの自らの周囲との関わり方の振り返りができていた。部会協議では、「導入のアンケートが、課題の必要性を捉えるのに役立っていた」「ロールプレイの意図的指名が、生徒が課題について深く考えるきっかけとなっていた」、「丁寧にすべき言葉遣いや、振る舞い等、具体的に考えるべきポイントが明かであればよかったのではないか」等の意見が挙げられた。福山暁雄指導主事（西部教育事務所）からは、「人間関係の形成、社会参画の意識の育成、自己実現を行うために特別活動を充実させることの大切さ」、「自分事として考えるための日常について考えること

の有効さ」、「意志決定に向けた学習課程の工夫」等について助言をいただいた。

（第3学年）岩田 梨琴 教諭

題材名 将来の生き方や生活に見通しをもち、進路選択する上で重視することを考えよう

生徒が自由に意見を言い合い、認め合う温かい雰囲気の中、架空の中学3年生



を設定し、それぞれの進路選択について考える活動を通して、話し合いが円滑に行われていた。その中で事例を通して、進路選択で自分が重視したいことを考え、自らを見つめ直して、主体的に進路を決定する意欲が高まった。部会協議では、「架空の人物について考えたことは、生徒が意欲的に考えることに役立っていた」、「温かい雰囲気の中、話し合いが活発に行われており、話し合いの充実には生徒同士の信頼関係が重要である」、「ワークシートでは自分の考えの変容が分かるようになっていた」、「ICTを活用して生徒の意見を共有することができればよかった」等の意見が挙げられた。川島正樹指導主事（西部教育事務所）からは、「合意形成と意思決定の場を設けること」、「PDCAサイクルに則って、現在どの段階にあるかを意識しながら授業を展開していくこと」、「学習したことに基づいて、自己決定を促す活動の有効性」等について助言をいただいた。

石川 智大（氷・北部中）

自己有用感と貢献意識を高める特別活動 ～学級の支持的風土を基盤として～

日本体育大学 体育学部 兼任講師 島田 光美

1 自己有用感と貢献意識

特別活動を通して、「よりよい学校・学級にしたい」という思いを養うためには、自己有用感と貢献意識を育成する必要がある。そのためには、他者との関わりが重要であり、個別の学習や活動ではそれらの能力を育成することはできない。他者と関わる中で、「自分は頑張れそうだ」「一緒に頑張ろう」「互いに～していこう」といったことを感じることで自己有用感や貢献意識の育成に繋がる。具体的には、「役割分担と役割遂行」「自発的、自治的な活動の推進」「豊かな人間関係の構築」の3つを学級活動において意識することが重要である。また、教科の授業の中で「教え合い」の場面を設定することも、他者との関わりを促すため、自己有用感や貢献意識の育成には有効である。

2 学級活動の三つの活動内容

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

学級会等の「学級や学校生活における諸問題の解決」、係決め等の「学級内の組織づくりや役割の自覚」、ボランティア活動の企画等の「学校における多様な集団の生活の向上」の3つが当てはまる。生徒にとって最も大切な議題を生徒自身で選定することが大切である。

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成を目指す取組である。具体的には、男女相互の理解、生活習慣の改善、食習慣の形成等を目指した取組のことである。

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成、主体的な進路の選択と将来設計に向けた取組である。これらの活動をするに当たっては、小学校との連携が大切となる。

活動(2)(3)の成果を高める基盤づくり

として活動内容(1)がある。生徒が関わり合い、高め合っていくような人間関係の下で、居心地の良い環境をつくっていくこと(支持的風土)が重要となる。

また、そのような環境をつくる上で、学級目標が大きな意味をもつ。「学級目標を達成するために自分は〇〇をした!」という経験が貢献的な実践として、支え合いを実感できる場面となる。

3 特別活動の特質

特別活動の特質は「自発的、自治的」な活動である。自発的、自治的な活動とは、強制や命令がなく、生徒が自分たちで計画したことに取り組んでいく活動のことである。仲間と話し合いながら合意形成を図ったり、仲間の意見を参考にしながら意思決定をしたりできるよう、教師は適切な指導をする必要がある。自発的、自治的な活動となるために、生徒自身で課題を見付けさせ、解決への筋道をもつことができるようにするための支援が教師に求められる。

生徒の自発的、自治的な活動の促進や支持的風土の醸成に向けて、学級目標や学級会は大きな意味をもつ。学級目標を決め、その達成に向けて一人一人が考えて行動することにより、支持的風土が醸成されていく。また、学級会を繰り返し実践することは、生徒の自発的、自治的な活動を促進することに繋がり、学級生活の向上に向けて活動を繰り返す中で支持的風土が生まれてくる。



野口 光紀(南・福野中)